

# ナタネ前作を想定した油糧用ヒマワリの栽培法

福島県農業総合センター 作物園芸部畑作科

## 1 部門名

普通畑作物—その他—作型・栽培型

## 2 担当者

平山孝・松葉隆幸・大野光・棚橋紺・朽木靖之

## 3 要旨

油糧作物の輪作によるヒマワリーナタネの2年2作体系を構築し、中オレイン酸品種である油糧用ヒマワリ「パイオニア63M80(春りん蔵)」の栽培法を確立した。

- (1) ヒマワリを5月に播種すると9月上旬に収穫を行うことができ、後作にナタネの作付けが可能となる(表1、図1)。播種時期が早いほどヒマワリ子実の含油率とオレイン酸含有率が高くなり、草丈や着花位置が低下して機械収穫適性が高まることから、ヒマワリの播種時期は5月上旬である。
- (2) 水田転換畑では窒素成分で3kg/10a以上の施肥が必要であり、培土時または着蕾時の追肥が収量確保のために有効である。肥沃な普通畑では基肥を控え、ヒマワリの生育を見ながら培土時に施肥量を調整する。なお、施肥量および施肥時期により子実の脂肪酸組成は変化しない。
- (3) ナタネ粕や発酵鶏糞は窒素成分を50%増施することで化成肥料の代替となる。牛糞堆肥は肥沃な普通畑では窒素成分で3倍量を施用することで化成肥料の代替となり得るが、水田転換畑ではヒマワリが窒素飢餓を起こすので使用しない。
- (4) ヒマワリは生育初期に雑草害を受けやすいが、播種直後にトリフルラリン乳剤を散布し、播種1ヶ月に中耕培土を行うことで高い除草効果が得られる。
- (5) 普通型コンバインによる収穫が可能であり、収穫適期は子実水分含量が低下する成熟期(開花後50日程度)以降である。鳥害が著しい場合には、減収を回避するための応急処置として、脂肪酸組成が固定する開花後30日から早期収穫が可能であるが、子実含水率が高いため、収穫後に十分に乾燥を行う必要がある。
- (6) 開花後早期からカワラヒワなどの飛来が見られる場合には、鳥害対策を検討する。

表1 油糧用ヒマワリの栽培作業モデル

時期	作業内容	使用機械
4月下旬	圃場耕起	ブラウ
5月上旬	施肥・耕起	ロータリ
	播種	播種機
	除草剤散布	動力噴霧機
6月上旬	中耕培土	培土機
7月上旬	(開花)	
7月下旬	(爆音機設置)	
9月上旬	収穫	普通型コンバイン
	乾燥・調整	静置型乾燥機
	残さすぎ込み	ブラウ

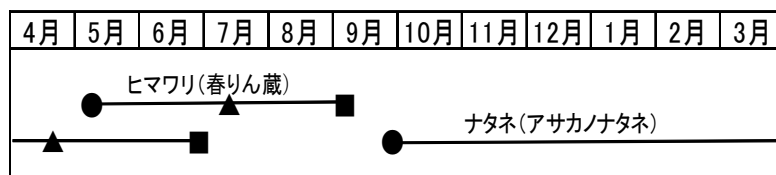


図1 ヒマワリ・ナタネの輪作体系

●播種、▲開花期、■収穫

## 4 主な参考文献・資料

- (1) 平成18年度～22年度センター試験成績概要
- (2) 平山・青田・棚橋(2008)油糧用ヒマワリの栽培と脂肪酸組成 東北農業研究
- (3) 平山・松葉・引地(2009)油糧用ヒマワリの栽培と収益性 東北農業研究